



名古屋いのちの電話

発行 「名古屋いのちの電話」
 事務局 名古屋市昭和区川名山町56
 聖霊病院 マリア館
 TEL (052) 833-0586
 振替 名古屋1-53758
 発行責任者 相馬信夫

No. 3 1985. 8

光りをともした名古屋いのちの電話

名古屋いのちの電話理事長 相馬信夫

多くの方々の期待と協力と援助の結晶として、七月一日午前一時、緊張して待機していた相談員は、名古屋八三二・四三四三番のベルの音と共に、最初の相談電話の受話器を取り上げました。

この時から、名古屋いのちの電話と相談を求める方々との心の流れが始まりました。この心の流れの意味と大切さは、このニュースの読者の方々には説明の必要がない程、明らかだと思えます。

最初にこの出発を皆様と共に心から喜びたいと思えます。これは、名古屋の社会に一つの大切な光りをもしたことになると思えます。人の心は悲しみや悩みや苦しみによって、閉ざされ、光りを失い、暗闇となることがあります。時には、これは絶望にさえつながり、生きる力を失うことさえあります。この閉ざされた心の扉を開くのは、心と心との出会いです。この出会いが対話に発展する時、開か

れた扉を通して、心の中に光りがさしこみ始めます。この微妙な心の流れについて、相談員の皆様は講習を通じて深く学ばれたことと思えます。すでに、第一期の講習を終えた約一〇〇名の相談員の方々が、活躍を始めておられますことはまことに有難いことであります。厳しい講習を受けて下さった皆様にも心からお礼を申し上げます。これからも又よろしくお願い致します。皆様の尊い犠牲と奉仕なくしては、いのちの電話はその活動を続けることは出来ません。

それと同時に、このいのちの電話を財政的に支えて下さっている後援会員の方々に心からお礼申し上げます。ご存じの通り、電話相談は一切無料でありますので、皆様の支えなくしては、いのちの電話は一日も活動を続けることは出来ません。年間の募金目標は一〇〇〇万円という厳しいものです。まことにあつかましいお願いです。

が、知人、友人の方にもおすすめていただき、後援会員の拡張にもご協力下さるよう、お願い致します。現在は電話器一台、一二時間態勢ですが、次の目標は電話器二台二四時間態勢です。それには相談員の増強、設備の拡充も必要です。二〇〇万人を超える名古屋市だけを考えても、いのちの電話を必要としている人々の数は、電話のベルがなり続け、いつ電話をかけてもいつもお話し中だ、という苦情が断えない事からも明らかです。事務局の方々も頑張っていて下さいます。貴重な部屋を使わせていただいている聖霊病院にも感謝を忘れてはけません。

皆様のご協力とご支援とご奉仕によって、いのちの電話を必要とする方々の期待に応えることを心から願いながら、ご挨拶といたします。

開局記念式典開かれ

名古屋いのちの電話開局記念式

典および懇親会は、六月二十九日名古屋国際センターを会場にして行われました。時折、激しい雨が降るといふ悪天候にもかかわらず約二三〇名の方々がご出席ください、日本で二十三番目のいのちの電話のスタートを祝い、喜びを分かち合うことができました。

第一部、記念式典は小川事務局長の司会により厳かな雰囲気のうちに行われました。

冒頭、相馬理事長は「皆さまのご協力により今日を迎えることができ、心より感謝申し上げます。いのちの電話は人間を大切にしよう、いのちを大切にしようという運動で、人権宣言の精神が実ったものであると確信しています」と挨拶し、決意を述べると共に更なる協力を呼びかけました。

準備委員長としての任を全うした塚田理事より開局までの歩みが報告されました。設立呼びかけ人会が開かれてから一年九ヶ月、それに先立つ非公式の準備会が行われてから二年以上の歳月が流れたことを改めて知らされ、その間に

多方面からの有形無形の支援をいただいたことを感謝せざるを得ませんでした。

日本電信電話株式会社（NTT）名古屋支社長、平山信男氏より祝辞と電話機器の贈呈、日本のいのちの電話連盟理事長、村山盛敦氏より祝辞と祝金の贈呈が行われ、それぞれ相馬理事長が受理、万雷の拍手がわき起こりました。

開局を記念して東京いのちの電話総主事、斉藤友紀雄氏の講演が行われました。「日本と世界の電話相談」と題するもので、同氏は「いのちの電話のような働きが発展するという現状は決して好ま



しいものではない。しかし、三十二年前にロンドンで始まったこの運動が、またたく間に世界中を駆けめぐり、この名古屋に日本で二十三番目のいのちの電話が開局されるに至ったことは意味深い。人間は誰でも悲しみに出会う。しかし、悲しみそのものは決して危機ではなく、人間の成長に欠かせない大切なものである。悲しみを受け止めてくれる人がいない時、言い換えれば、悲しむことができないう時こそ危機である。私たちは電話を通して訴えられる悲しみを誠実に受け止める者でありたい。自分の生活の場できいきと励むことこそ本当の国際性である。共に頑張りましょう」と語りかけ、出席者一同深い感銘を与えられました。

第二部、懇親会は長井準備委員の司会により楽しい雰囲気の中で行われました。

来賓を含む参加者全員の紹介があり、皆がいのちの電話に連なる友であることを再確認しました。

佐藤主事による祝電披露の後、小山理事の音頭により乾杯。なごやかな歓談の時が持たれ、多くの方々より味わい深いスピーチをいただき、名古屋二期会所属の高岡

美千代氏が祝いの歌を披露してくださいました。

最後に、島田理事が感謝の挨拶を述べ、懇親会を終了しました。

このように、多くの方々に見守られ、お励ましと祝福とをいただきながら、名古屋いのちの電話は開局しました。東京、大阪にくらべ随分遅いスタートとなりましたが、全国に通用する水準を持った相談活動が続けたいと思います。

なお、開局記念式典、懇親会には名古屋国際センターより後援をいただきましたことを感謝をもち、ご報告いたします。



電話相談スタート!!

七月一日午前一〇時、名古屋いのちの電話は開局し、活動を始めました。当日は開局に先立ち小川義雄事務局長が「自分の手にあまる相談があっても他の相談員が受けとめてくれることを信じ、仲間を信頼しておちついて応待しましよ」と励ましの挨拶を述べ、最初の電話担当者に花束が贈呈され、開局を祝いました。開局当日は約三〇件の相談電話があり、ほとんど電話のベルがなりつづくといった状況でしたが、実際にはその五〇倍くらいの電話があったと思われます。「ただ今相談電話はお話し中ですので、あとでおかけなおし下さい」というテープがまわりつづけました。

当面は電話一台、午前一〇時から午後一〇時までの一二時間態勢で、原則として二名の相談員が待機しています。相談員ひとりの一回の担当時間は三時間、月五回以上を担当しています。一回の担当には前後の整理の時間も含めて五時間くらいが必要とされ、かなり厳しい状況ですが、秋からは研修を

終えた二期二次の人々も加わり、約一〇〇名の受信態勢となります。

いのちの電話は、いつでも、誰でも、どこからでも、匿名で相談できるのが特色で、会話の内容の秘密は厳守されます。しかし受信の記録はきちんと整理され、今後の活動に重要な資料となります。七月一日から三十一日までの一ヶ月間の受信件数は六四八件（男性一七六件、女性三九九件、不明七三件）で、一回の平均所要時間は二〇分でした。相談の多かった項目としては、夫婦関係（一一一件）家族関係（七二件）人生問題（六五件）などがありました。



◆ 理事会報告 ◆

第一回理事会が六月一日、聖霊病院会議室にて開かれ、理事一三名中七名が出席しました。

各理事の自己紹介の後、塚田道生設立準備委員長により開局にいたるまでの経過が報告されました。協議にうつり、理事の互選により相馬信夫氏を理事長に選出し、つづいて一九八五年度予算案が提出されました。小川義雄事務局長が事務局原案の骨子を説明した後、討議がなされ、将来の社会福祉法人化のために基金の積立ての必要性が指摘され、事務局原案の一部を修正し、総額一三二五万円の予算が決定されました。

なお後日、理事一名が就任を承諾され、理事会は一四名となりました。理事氏名は次のとおりです。

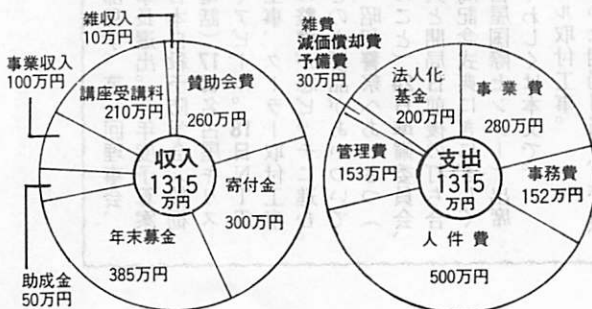
名古屋いのちの電話理事

- 理事長 相馬 信夫（カトリック名古屋司教）
- 理事 内河 恵一（弁護士）
- 笠原 嘉（名古屋大学医学部教授）
- 川原 恵（聖霊病院事務局長）

理事

- 川原 啓美（愛知国際病院長）
- 木本精之助（名古屋YMCA総主事）
- 小嶋清一郎（東海銀行取締役）
- 小山 勇（中日新聞社取締役）
- 島田 麗子（名古屋YWCA総幹事）
- 塚田 道生（名古屋キリスト教協議会会長）
- 豊田 寿子（財団法人勤労センター理事）
- 中西仁四郎（南山短期大学助教授）
- 西沢 信正（東海テレビニュースキャスター）
- 渡辺 亘親（金城学院理事長）

1985年度収支予算



盛大だった開局記念コンサート

名古屋のちの電話開局記念コンサートは五月二日、愛知文化講堂で、三〇〇人を超える入場者を迎えて催されました。神野明氏自身による曲目解説がみごとで、その師杉浦日出夫氏との名コンビが好評のチャリテイコンサートでした。聞くところによりますと、全国の「いのちの電話」センターが行った中でも一番大きな収益をもたらしたのでないか、との事です。パツハもベートーヴェンも音楽によつて人の心に希望と喜びとなくさめを与えることに生涯をかけましたが、神野、杉浦両氏は、その音楽によつて「名古屋のちの電話」の出發と未来に希望と喜びとなくさめを与えて下さったことをおぼえ、感謝したいと思ひます。さらに有形、無形にこのコンサートを創り、ささえて下さった滑島実行委員長及びボランティアの皆様、本当にありがとうございました。チケット売り上げ枚数は約一、三六〇枚、純益は一、一六〇、五五五円でした。

◆ いりなかだより ◆

4月2日ある方が「馬ぶねのような所」といつていた部屋の模様替え、少し事務所らしくなる。4日訓練委員会。7日名古屋キリスト教協議会主催イースター早天礼拝でアビール(滑島)献金をうける。15日音楽会実行委員会、チケット売上げの中間報告日、この日までに九百枚ぐらいの予想。後半の頑張り期待する。16日音楽会のピラマキ。準備委員会(理事会6月開催決定。開局記念式典実行委員会選出。7月1日相談電話受付開始決定。18日音楽会の大看板出来る。19日中日新聞に7月1日開局予定が掲載。23日音楽会実行委員会、当日の役割分担など、話し合う。25日開局記念式典実行委員会・訓練委員会4月末で一期一次生の訓練終了。かぎりなく出てくる課題をこなしていく必要に迫られている。

・近畿地区のちの電話事務局会、関西、京都、奈良、神戸、名古屋(佐藤)はじめての顔合せ。

5月1日この一週間は音楽会色一色。音楽会前夜、一、三〇〇枚以上の売上げ予想に、うれしい悲鳴。準備で大忙し。2日チャリテイコンサート当日、やりました。名古屋のボランティア!神野氏を囲んでの打ち上げはこの外楽しい一時だった。この様

子は上記に。7日電話相談実習8グループの訓練スタート(二期二次生)火曜、水曜、木曜はこれらグループの出入りでにぎやかになる。準備委員会・開局記念式典の原案作成。今年度運営委員長塚田道生氏、副委員長に山下政一氏選出。訓練委員長島田麗子氏選出。14日カトリック名古屋司教相馬信夫氏と話し合い。チャリテイコンサート反省会。15日NHKテレビ630取材。16日坂大訓練委員会、訓練委員と電話相談実習スタッフ合同協議。17日事務室と電話室の照明工事。22日中部善意銀行へ。訓練委員会。27日佐藤、中野両主事歓迎会、仕事場を離れて初めての集い。「これですくにはにげにくくなったでしょう」とは誰の弁? 30日YMCAレディーササロンへアビール。NTT八事局岡藤局長、奥宮係長来所。これから協力的体勢について話し合い。

6月3日準備委員会、理事会、運営委員会、財務委員会の構成について協議。4日マリア館使用に関してシスター川原と打合せ。一期一次生相談。談話研修生オリエンテーション(於名古屋中央教会) 5日開局記念式典実行委員会(於国際センター見学) 訓練委員会12日中日新聞へ記事掲載。13日東海銀行本社訪問、社会福祉協議会訪問、緊急電話連絡先打ち合せ(6人) 14日NTT八事局へ打ち合せ、

電話局の内部見学。第一回理事会、相馬信夫理事長選出。今年度予算案決定。15日日本自殺予防学会(於栃木のちの電話) 17日名古屋キリスト教協議会でアビール。18日NTT八事局電話工事、クローラー取付工事等、電話室の整備が急ピッチに進む。事務機器などの必要品があいついで購入される。昭和警察へあいさつ(緊急態勢時のこと) 24日準備委員会開局記念式典と開局日前後の打ち合せ。29日開局記念式典にぎにぎしく開催(於名古屋国際センター) 出席数約 名、くわしくは本文で。

30日非常用ベル取付工事。

7月1日いよいよ開局日当日、委員、ボランティア、事務局集合の中、午前10時丁度はじめての電話が鳴った。各局テレビ局取材2日NHKラジオでアビール。3日訓練委員会。6日近畿地区常連問題検討会(中野) 8日9日夜、昼、2回にわたつて「スーパ」ヴァイザリオリエンテーション講師平田真貴子氏(京都のちの電話主事) 15日NTT工事。16日市役所広報取材。17日ビクターチヨーク氏(国際カトリックアカデミー)と話し合い。30日小嶋滑一郎氏(東海銀行)と話し合い。

31日一期二次生レポートメ切日、この日までに提出なき人あり。

(佐藤)

募 金 報 告 (1985年4月1日~1985年7月31日) (敬称略)

賛助会員 A

岡田清子	渡辺宜親	田島義正	佐藤加恵	鳥飼繁・薫	菅原美恵子	西原新一(3)
伊藤亥之女	志村信夫	相馬信夫	伊藤倫子	西沢信正	西村 清	原 智津子
早川雅春・おさみ		川村敏夫	聖霊修道院	和田千寿子	森 宣子	高嶺 周
加藤順一	梶原 寿	日比野かづを	親ばと子ばと会(玉木功)	加藤慎二		加藤順子
古橋義之	竹谷とき子	渡壁初己	稲垣芳子	植松従爾	高田邦彦	榎本俣幸
山下政一・登代子				合計 39口	360,000円	

賛助会員 B

白井泰子	長井 潤	冨鳥典子	中野広子	若山 恵	三輪淳子	服部富美
和久英子	小川貞三	青山 玄	佐竹一予	藤久耕一	堤 晴子	津田とみ子
森部暁子	軽部倫子	石井ハル美	小島信久	加藤純一	貝沼恭一	梅澤満子
岩田邦子	足立文彦	グラバア俊子	近藤百合子	児玉光雄	三里和子	宮内英夫
日本キリスト教団鳴海教会婦人会			成田良子	堺 敬子	粕谷靖彦	中山真一
村手 元	松村睦子	小板橋秀行	菊田よね子	飯塚比呂子	玉置恵子	加藤里子
岡田喜美江	伊藤はなよ	三輪淑子	神田充康	合計 44口	220,000円	

賛助会員 C

若本英輔	加藤 豊	後藤健一	竹内恵子(2)	鈴木道子	高須速夫	山本善太郎
五十君和子	足立国子	渡辺里支	斉藤松次郎	志村澄江	神尾初子	佐久間貞介
檜尾 一	家本博一	森下 眸	富樫きみ	工藤育子	細江繁幸	津ノ国紅
小川千重子	林 郁子	武岡智子	柳生球子	多和田いみ子	相馬貞蔵	塚本貞子
秋田芳江	河村公子	竹内宏子	沖本敬子	勝股かね	小笠原香	加藤三緒子
細井正延	鈴木冴子	長松一枝	深山かの子	山下弘子	相馬康人	大岩凱子
片山悦子	鬼頭明枝	長沼てる子	佐野百合子	平野昌子	植木貞次郎	早川みどり
日基教団春日井教会婦人会		浅見方貴	矢満田篤二	林比佐雄	岡崎恒子	中谷塩子
加藤みゆき	山本妙子	徳永泰子	大竹敦子	水野壽子	肥田藤子	高須洋子
中下景子	梅沢晴美	中山佐知子		合計 66口	198,000円	

寄付者 (個人)

片岡きよえ	R.A.メリット	岩野 翠	内山正邦(4)	吉橋綱造	太田八重子	山田一磨
酒井路子	安野満枝	武保輝彦(4)	榮 美彦	三宅澄子	片寄洋子	河知久美子
伊藤静子	坂田 棗	楠 忠雄(2)	服部富美	石田喜代子	神田よ志	今井士郎(2)
小島美花	長谷川豊志	朝岡 学	千波冨美子	北條とく子	水野美代子	柴田純子
土方つや子	五味素代	福田誠二	梨本将代	岡野房子	山中国子	小沢とし江
黒田巖之	吉武節子	傍島千咲子	木村常子	宮木邦蔵	西村 稷	加藤迪春
小知和優江	川口鐘一	内海捨子	荒木節子	家田足穂	山田 勝	黒沢新二郎
杉浦 玉	伊藤孝一	佐藤一夫	柳原佳枝	服部みやこ	久野ひろ子	植野さがみ
中川晋介	奥山広子	林 恵子	細田智津子	小島洋子	田中 暁	岡部美代子
清水喜作・真理子		三井とみえ	祖父江キリスト教会	合計 76口	976,100円	

寄付者 (団体)

日基教団愛知教会婦人会 神言会管区長館 名古屋聖マルコ教会
カトリック布池教会 日基教団熱田教会婦人会 日基教団愛知教会つばみ会
聖心会本部修道院 名古屋福音伝道教会 カトリック恵方町教会婦人会
三栄工商株式会社 名古屋キリスト教協議会 日基教団名古屋東教会婦人会
ドミニコ会聖ヨゼフ修道院 カトリック東山教会 岡崎修道院
カトリック南山教会大樹の会 瑞浪カトリック教会 日基教団名古屋教会
愛知視覚障害者援護促進協議会 柳城女子短大宗教委員会 安田家庭集会
日基教団名古屋中央教会 日基教団高蔵寺ニュータウン教会婦人会

合計 23口 1,191,188円

開局記念お祝い金

日本いのちの電話連盟 東京いのちの電話理事長・松島正儀 斉藤友紀雄
名古屋YWCA 浜松いのちの電話 神戸いのちの電話 奈良いのちの電話
関西いのちの電話 名古屋学生センター 聖心布池教会ピーター・チョーク
名古屋YMCA少年活動委員 堀口桂子 東海銀行業務渉外部部長・望月智隆
梶原 寿 永澤嘉子 三田村充謙 名波正子 一圓俊郎

現物寄付者

いのちの電話相談用電話一式……………NTT
電話室・事務局壁ぬり……………稲葉塗装店
ゲタ箱……………伊里建築
クーラー取付工事……………東洋空調(株)・YMCA
予定表(白板)……………YMCA
印刷機……………YWCA

ここに記載した以外の多くの方々からも物品寄附をいただいております。
有難うございました。

※前記記載洩れ 後援会員(寄附)木全昭二(85. 2. 28)おわびして訂正します。
(募金報告に報告もれ、誤りがありましたら誠に申し訳ありませんが、事務局へお知らせ下さい。)